

# 分け隔てない助け合い

使徒言行録 11 : 27~30

2019. 5. 5

熊取教会

5 <sup>27</sup> そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。<sup>28</sup> その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると“霊”によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。<sup>29</sup> そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。<sup>30</sup> そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。

## 10 【はじめに】

早、5月。平成が終わりました。パソコンのかな漢字変換に「れいわ」と入れると、変換文字の一番に元号が出て来ました。準備が行き届いたようです。「令和」の名のとおり、美しいハーモニーのある時代になってほしいものです。戦前のような悲惨な弾圧の時代に帰らないよう心から祈ります。

15

## 【使徒言行録】

毎週の礼拝は使徒言行録のみ言葉を、順に読み進めています。先週は、11章19節から26節まででした。そこにはアンティオキアの教会のことが記されていました。古代ローマ帝国の三番目といわれた大都会「アンティオキア」。そこに、エルサレム教会から迫害を逃げてきた人々がいました。その中のある人々が、「異邦人」にイエス・キリストを伝えました。そして、神様のことを知らなかった人々が、イエス・キリストを信じるようになった。救われました。

20

「イエス様が、十字架に掛かって、命を捨てて下さった。それは私のためであった。」と心のふるえるような思いで、そう気が付く。そして「アーメン」と告白して洗礼を受ける。そういう者たちが次第に増えてゆきました。<sup>21</sup> 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かったです。と記されています。アンティオキア教会の人々が、教えを宣べ伝えた。そして主が、その働きを助けられました。主の助けがなければ、働きは虚しいものです。

25

詩127に、主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の労苦はむなし。主御自身が守ってくださるのでなければ／町を守る人が目覚めているのもむなし。とあります。ことをなして下さったのは主ご自身でした。アンティオキア教会の人々は、主イエスにしっかりとつながって、葡萄の枝が幹につながるように、イエス様にしっかりとつながって、そして、実りを結びました。彼らは名前が残されていません。私達と同様の、普通の人々だったのでありましょう。主につながることによって、実りをつける。私達も主につながる豊かな教会でありたいと思います。

30

## 【バルナバ】

アンティオキア教会で、異邦人たちが次々に洗礼を受けていることが、エルサレムまで伝わりました。「アンティオキアでは大勢の異邦人たちが洗礼を受けている。」そのことを、エルサレムの教会が知って、「一体何が起きているのか。勝手な信仰へと逸れてはいないか。」気にかけるようになりました。そこで様子を見るために、エルサレム教会からバルナバが派遣されてきました。信仰深く、正しい判断力を持ち、心が広く謙虚で、しかも勇気があり、信頼に値する人物。バルナバが、

35

特使としてエルサレムからアンティオキアにやってきました。

23 バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。バルナバはアンティオキア教会に真の神の恵みが与えられているのを見ました。そして喜んでいます。信仰を共にする兄弟姉妹と一緒にいることは大きな喜びです。バルナバは、アンティオキアの人々の、心を見ました。そこに喜びと希望があるのを見ました。教会の中に思いやりがあるのを見ました。イエス様が人々の間に働いて、愛の業をなさっておられる。そのことを喜びました。人々が割礼を受けているかどうか、食事のときに手を洗っているかどうか、安息日の決まりを厳密に守っているかどうか。そういったことを問題にはしていません。アンティオキアの信徒たちは、イエス・キリストを中心として、毎日毎日イエス・キリストと共にありました。だからこそ、町の人々が教会の者たちを揶揄って、「クリスティアノス＝キリスト者」と呼んだのでありましょう。

### 【教師】

イエス様は、旧約聖書の完成者として来てくださいました。この方は旧約聖書の恵みの約束を成し遂げて下さる方です。ですから、旧約聖書を知って、イエス様の恵みを一層の深く味わうことができるように。また、人々が、信仰を深め、道から逸れることのないように。バルナバはそう考え、アンティオキア教会の人々に教師が必要であると考えました。

### 【サウロを呼ぶ】

そして、思い出したのが、サウロでした。後のパウロ。彼は若い時、ファリサイ派の有名な教師、ガマリエルに学び、ユダヤの掟を熱心に守っていました。パウロの手紙をみると、彼が深い学識を持っていたことが分かります。聖書の知識ばかりでなく、ギリシャ哲学の素養もあったようです。そのサウロは、そのとき、アンティオキアに近い、タルソスに住んでいました。エルサレムのユダヤ人たちから命を狙われていましたから、目立たない生活をしていましたようです。タルソスでの9年間、サウロが何をしていたのか、聖書に記録はありません。

バルナバは、アンティオキアの教会の人々を導く教師とするために、サウロを連れてこようと考えました。25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、26 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。

### 【アンティオキア教会】

アンティオキア教会には注目すべき点が三つあります、第一は、さきほど申しました。名前も残されていない、普通の人々によって、異邦人への伝道がなされたということです。

異邦人への伝道は、これまでも既に2回記されていました。一つ目は、エチオピアの高官です。彼がエルサレムからガザに下っていたとき、フィリポに出会い、イザヤ書の預言の意味を聞いて、洗礼を受けた、というできごと。二つ目は、ペトロがローマの百人隊長コルネリウス一家に洗礼を施した出来事です。しかし、この二つの物語に出てくる異邦人は、イエス・キリストの教えに出会う前から、主なる神を敬う人々でした。モーセの律法を大切に考えていた人々でした。それに対して、アンティオキア教会で、信仰を持つようになった異邦人たちについては、そのように記されてはいません。彼らはモーセの律法を知らないまま、イエス・キリストのことを知るようになったと思われまふ。全くの異邦人にキリストが伝えられました。神を知らない異邦人に伝道がなされたの

はアンティオキア教会が初めてでした。

そして、アンティオキア教会の注目点の第二は、この、アンティオキア教会で信仰生活を送っていた人々が「キリスト者」と呼ばれるようになったことです。初めてキリスト者と呼ばれるようになりました。

5 第三の注目点は、この教会が異邦人伝道の中心となったということです。パウロはアンティオキア教会から派遣されて異邦人の地にキリストを宣べ伝えて旅をし、旅を終えてアンティオキア教会に戻りました。コリントとかエフェソ、とか、聖書でおなじみの教会は、アンティオキア出身のパウロが作ったという点において、アンティオキア教会の娘教会です。つまりそれらの教会の母教会が、アンティオキア教会です。パウロを送り出し、彼を支えた教会。多くの異邦人教会の母教会  
10 となった教会。その意味でアンティオキア教会は大変大切な教会でした。これがアンティオキア教会の三番目の注目すべき点です。

まとめると、第一は異邦人伝道がなされたこと、第二はキリスト者と初めて呼ばれるようになったこと。第三はパウロ伝道を支え、多くの娘教会を生んだこと、この三つの特徴があります。そして、更に、第四の特徴が、今日の聖書に記されています。それはエルサレムの教会を支えたこと  
15 です。

### 【預言する人々】

27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。

預言する者たちが、下ってきた。エルサレムは山の上の都ですから、そこからアンティオキアに  
20 来るときは下ることになります。彼らは神のみ言葉を携えて、神の都エルサレムから、人々の住む町アンティオケに下ってくる。

28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると“霊”によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。

アガボとはヘブライ語です。ですからこの人はユダヤ人です。彼は預言の霊によって予告しまし  
25 た。彼は21章にも記されています。エルサレムに向かうパウロに、「あなたはエルサレムでユダヤ人に縛られて異邦人に引き渡される」と予告をし、だからエルサレムに行かないようにと頼んでいます。これからみると、アガボもキリスト者だったようです。かれは、今日の聖書箇所では、「世界中に大飢饉が起きる」と予告しています。そして、そのとおり、それがクラウディウス帝のときに起きた。この皇帝は、紀元41年から13年間ローマを統治しています。その間、ローマ帝国に  
30 4度の飢饉があった。ここでアガボが予告しているのは、その内の、クラウディウス統治下5年から7年にかけての飢饉であろうといわれています。その飢饉がユダヤ地方で特にひどかった。多くの餓死者がでた。飢饉と戦争と迫害。世の終わりを告げる出来事の中で、教会どうしがむすばれて支えあう。その飢饉はアンティオキアをも襲っていたであろうと思われませんが、アンティオキア教会の人々は、ユダヤに住む兄弟たちのことを心配し、

35 29 そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。 これは、すごいことです。ローマ世界全体が飢饉でした。ということは、アンティオキアの人々も食べ物が乏しい中でした。その中で、乏しさをわかちあう。アンティオキア教会の人々の中心は、ステファノの殉教から始まった大迫害を逃れてきた人々でした。本来対立してもおかしくない関係であるのに、困難にある兄弟のために思いやりの援助をしました。迫害されユダヤから逃げ  
40 出さなければならなかった自分たちにくらべて、そのままユダヤに留まることができた教会の人々

に対して援助を行う。しかも、アンティオキア教会の中には、既に沢山の異邦人キリスト者たちもいました。人種を超えて、対立を超えて、同じ信仰をもつ兄弟への援助の手を差し伸べる。同じ主にある兄弟姉妹として、自分たちの困難を横において、ユダヤの教会の人々を援助しようと決めました。<sup>30</sup> そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。

5 とあります。アンティオキア教会の特徴の第四の点はこれです。つまり、彼らは率先して困窮している教会を助けたという点です。対立を超え、人種の違いを超えて、しかも自分たちも窮乏の中にあるときに、率先してもっと貧しかった教会を援助した。まことにアンティオキア教会の中に主イエスが働いておられた。主の愛を心の中に保っていた教会でした。

#### 10 【台湾長老教会】

一昨日、玉造の大阪女学院で、大阪教区総会があり、委員会報告の中で印象に残ったものがありました。昨年6月18日に起きた大阪北部地震の件です。地震被害を受けた教会のために、台湾基督長老教会から、60万円の献金が大阪教区に寄せられた。しかも、地震後1週間目の25日に寄せられています。台湾と日本とは民間交流は盛んですが、国交はありません。それなのに大阪の教会のために、迅速に反応して下さった。その報告を聞いて、真っ先に思ったのは、この、今日の聖書箇所でした。乏しい教会を助ける愛のある教会のことです。

#### 【まとめ】

アンティオキア教会のことは、以上の4つの特徴点がありました。

20 第一 異邦人伝道が最初になされたこと。

第二 信者がはじめて「キリスト者」と呼ばれたこと。

第三 パウロの異邦人伝道の拠点となったこと。そして

第四 飢饉の中で、エルサレム教会を援助したこと。 この四つ。

25 アンティオキア教会は、飢饉と迫害の中で、なお、信仰を保ち、伝道と、愛の業を進めて行った教会であったことを、私達は覚えておきたいとおもいます。 ここには、まことに、主が働いておられました。私達も主に聖霊の働きを希い、信仰と愛の業にはげみつつ、み言葉を宣べ伝える群れでありたいと思います。愛に根差し、確信と喜びの中で共に歩みたく思います。